

評価委員会総合評価

研究課題名：積雪変質モデルを用いた積雪層に関する研究

評価委員

委員長：隈健一

委員：高薮出、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、堤之智、青梨和正、
佐々木秀孝、鈴木修、橋本徹夫、山本哲也、石井雅男、丸本大介

評価年月日：平成31年2月15日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、なだれ注意報の改善を目指して、SMA Pを用いて雪崩の起こる原因を科学的につきとめるというチャレンジングな研究課題である。

本研究により、観測データが十分得られない中、表層雪崩と全層雪崩の特徴の違いを数値的に例示できた点は、興味深い成果である。明確な基準を設定しにくい面があるなだれ注意報について、判断に役立ちそうな数値的な情報が得られた点は、高く評価できる。雪崩に関連した積雪の安定性を導入したことで雪崩危険度が定量化されたことは非常に大きな進展と考えられる。積雪断面観測実習を行ったことも、特筆されるべきものである。今後の注意報の改善に向けた研究の発展が期待される。

また、地方側の積極的な参画が見られており、人材育成にも有効であったと考えられる。研究者の知見と地方現場の問題意識がうまくマッチングできた好例である。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた非常に優れた研究であったと評価する。